

【小学校音楽】

題材の指導計画における観点別評価(評定に用いる評価)の位置付け〈例〉

		評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A 表現 (第5・6学年の例) 歌唱・器楽	・[事項イの(ア)又は(イ)のいずれか又は両方]について理解している。(※第1学年～第4学年は、「気付いている。」) 【知識】 ・思いや意図(※第1・2学年は、下線部不要)に合った表現をするために必要な[事項ウの(ア)、(イ)、(ウ)](いずれかを選択)を身に付けて歌っている。(※器楽分野の場合は、「演奏している。」) 【技能】	[音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、和音の響き、音階、調、拍、フレーズ、反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横との関係など](その題材の学習において児童の思考・判断のよりどころとなる、主な音楽を形づくっている要素を適切に選択)を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じとったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい(※第1・2学年は「曲想を感じ取って」、第3・4学年は「曲の特徴を捉えた」)表現を工夫し、どのように歌うか(器楽分野の場合は「演奏するか」)について思いや意図(※第1・2学年は、下線部不要)をもっている。	[その題材の学習に粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意思をもったりできるようにするために必要となる、扱う教材曲や曲種等の特徴、学習内容など、児童に興味・関心をもたせたい事柄]に興味・関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱(※器楽分野の場合は「器楽」、音楽づくり分野の場合は「音楽づくり」、鑑賞領域の場合は「鑑賞」)の学習活動に取り組もうとしている。	
	曲想及びその変化(※第1・2学年は、下線部不要)と、音楽の構造との関わりについて理解している。(※第1学年～第4学年は、「気付いている。」) 【知識】 (「技能」に関する評価規準は設定しない。)	[音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、和音の響き、音階、調、拍、フレーズ、反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横との関係など](その題材の学習において児童の思考・判断のよりどころとなる、主な音楽を形づくっている要素を適切に選択)を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じとったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなど(※第1・2学年は、「楽しさ」)を見だし、曲全体を味わって聴いている。		

※「A表現」音楽づくり分野の文例は、令和元年度新教育課程説明会資料18ページを参照。

はばたく群馬の指導プランⅡ 題材のつくり方「A表現」と「B鑑賞」の関連を図った題材を例に

過程と基本的な学習活動

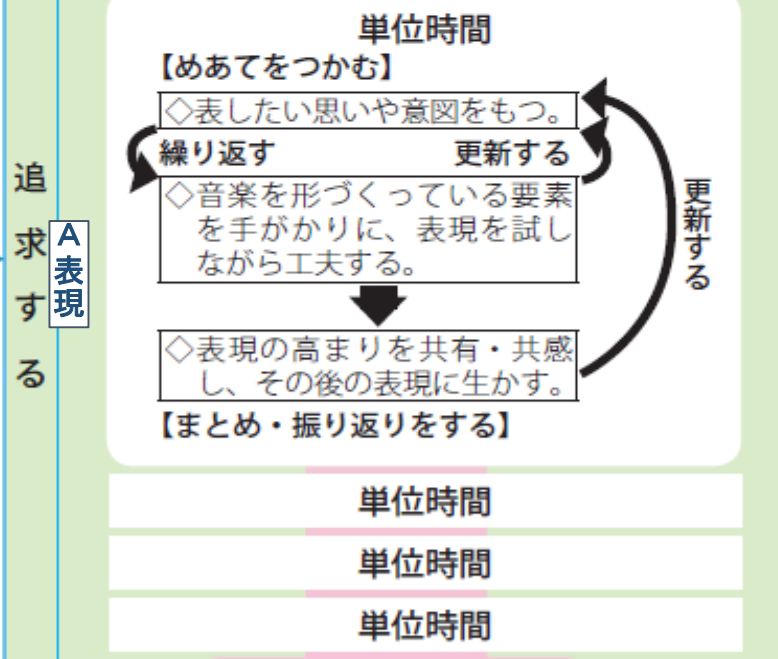
1 題材の課題を把握する。

- ◇音や音楽と出会う。
- ◇出会った音や音楽について、その雰囲気と音楽を形づくっている要素とを結び付けて聴き取る。
- ◇聴き取ったことを基に、どのような音楽表現にしたいかについてイメージをもつ。
- ◇題材の課題をつかむ。

【題材の課題】
〈題材で取り組む大まかな音楽表現〉

- ◇題材の課題解決に向けての大まかな見通しをもつ。
- ◇音や音楽の雰囲気を醸し出す理由を、音楽を形づくっている要素等に着目して探る。

2 音楽を形づくっている要素と思いや意図とを関連付けながら表現を探る。



3 発表等を通して表現の高まりを実感し、題材の学びを振り返る

- ◇グループごとの発表や、全体でまとめの演奏等を行う。
- ◇題材の学びを振り返る。

【まとめ】
題材全体の振り返り

〈例〉評価の位置付け

知識・技能	思考・判断・表現	主体的…態度
【知】 B 鑑賞	【思判表】 B 鑑賞	【主体態】 B 鑑賞
単位時間		
各単位時間で重点を置く評価の観点とは、指導者の授業の「ねらい」によって、変わります。		
【知技】 A 表現	【思判表】 A 表現	【主体態】 A 表現
※単位時間の中で、全ての観点について評価するということではありません。		
単位時間		
単位時間		
単位時間		
【知技】 A 表現		【主体態】 題材全体

指導と評価の計画の作成に当たっては、はばたく群馬Ⅱで示した、各活動を有機的かつ効果的に関連させることによって教科及び学年の目標を実現していくように、内容の構成や主題の設定、適切な教材の選択と配列などに配慮します。

「指導に生かす評価」
(学習状況を継続的に見取る)

全ての単位時間において、「ねらい」に即し、児童の学習状況を見取り、必要があれば、教師が指導、支援するなどして、その改善を図ります。

「指導と評価の一体化」の充実

「評定に用いる評価」
(評価したことを記録に残す)
= 記

・指導計画や授業の展開において、評価規準に基づき、評価の結果を記録に残す場面を精選し、適切に位置付けます。
・音楽科の「主体的に取り組む態度」は、粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意志をもったりしているかどうかについて、継続的に見取るようにし、題材の最後に記録に残すことが多くなります。